

平成26年度入学試験問題（推薦入試II）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 英語文化専攻（昼間主コース）

注意事項

1. 受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
2. 解答は、必ず解答用紙に記入すること。
3. 解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
4. 解答時間は、120分である。
5. 横書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

問 題

言語は成長し変化し消滅する生きものです。言語の成長・変化・消滅は、それぞれの言語を母語とする話者の増減が主な原因です。ユネスコ（国連教育科学文化機関）は、世界で約 2,500 の言語が消滅、あるいは消滅の危機に瀕しているとの調査結果を報告しています*。この報告からもわかるように、琉球諸語やアイヌ語の場合、話者の減少が言語の消滅の危機と密接に関わっています。話者の増減には様々な要因が絡み合っていますが、その中から文化的、歴史的、経済的要因などについて、2つ以上の言語を例に挙げ、日本語で論じなさい。（1000字以上、1200字以内）

*例えば、バスク語（スペイン）、ウェールズ語（イギリス）、プロヴァンス語（フランス）、アメリカ先住民の諸言語、オーストラリア先住民の諸言語、台湾先住民の諸言語などが危機的状況にある。

朝日新聞デジタル (<http://www.asahi.com/shimbun/nie/kiji/kiji/20090302.html>)

UNESCO (<http://www.unesco.org/new/en/culture/themes/endangered-languages/>)

平成26年度入学試験問題（推薦入試II）

小論文

法文学部 国際言語文化学科 英語文化専攻（昼間主コース）

出題の意図

国際言語文化学科、英語文化専攻は、豊かな国際感覚と言語運用能力に加え、文化を歴史・言語・文学の面から探求し、自らの文化と異文化との有機的・総合的な理解能力を身につけることを目指している。したがって、この専攻への入学希望者には、国際社会の動向に意識を向け、国内外で起こっていることを、その根底にある文化的・社会的・歴史的背景をふまえ、幅広い視野と見識で自分なりの解釈ができる能力が求められる。この小論文は、受験生が、そのような視野や見識をもって世界に対してどうか、また、提示された問題を議論する論理力・表現力を有しているかどうかを見ようとするものである。